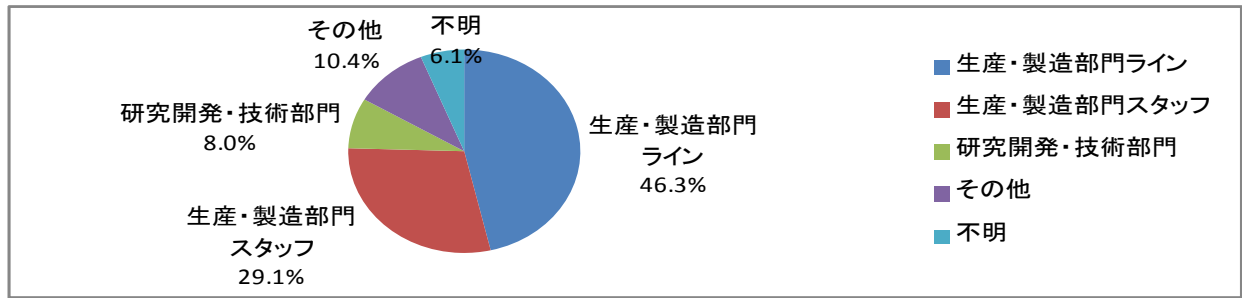


【2】職種別、階層別の特性

生産マイスター検定は、主に 1,040 万人の製造業を中心とした「ものづくり中核人材の育成」を目的として開発された検定です。そのため、第 10 回も例年どおり、受検者の約半数が生産・製造部門ラインであり、また生産・製造部門スタッフと研究開発・技術部門の合計は全体の 1/3 以上を占めています。まさに、全社としての「共通言語」や「制度での受検」といった取組みをされていることがうかがえます。

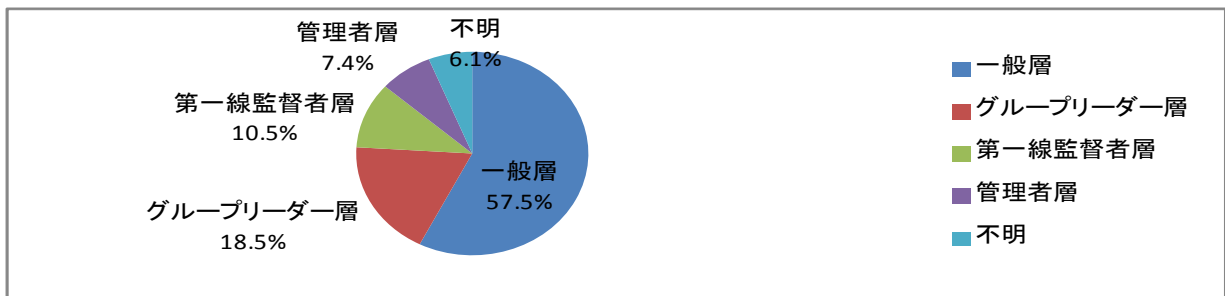
また、受検者の階層では、「一般層」が受検者全体の約 6 割を占めており、その多くが 3 級、またはベーシック級を受検しています。「グループリーダー層」は全体の約 2 割で 2 級、または 3 級の受検が多く、「第一線監督者層」と「管理者層」はあわせて全体の約 2 割で主に 1 級、または 2 級の受検となっています。

●職種別の内訳



職種	1級	2級	3級	ベーシック級	計	割合
生産・製造部門ライン	65	193	400	336	994	46.3%
生産・製造部門スタッフ	99	157	254	115	625	29.1%
研究開発・技術部門	45	43	63	21	172	8.0%
その他	30	53	99	41	223	10.4%
不明	18	28	33	52	131	6.1%
計	257	474	849	565	2,145	100.0%

●階層別の内訳



階層	1級	2級	3級	ベーシック級	計	割合
一般層	59	197	516	461	1,233	57.5%
グループリーダー層	37	109	219	32	397	18.5%
第一線監督者層	70	99	50	6	225	10.5%
管理者層	73	42	29	15	159	7.4%
不明	18	27	35	51	131	6.1%
計	257	474	849	565	2,145	100.0%